へ御ひろぶたにすはる、二番又所々よりの御卷數、是又傳奏御持參、三番伊勢守、御ひとへ御ひろぶたにすはる、四番所々よりの御卷數、申次持參、五番に又所々よりの御卷數の箱、御ひろぶたにすへて申次持參、六番に細川殿より進上の御扇十本、申次御目にかくる、七番に又細川殿よりのそめ革三枚、申次御目にかけ候、八番に諸家より進上の歳暮の美物の目錄、申次持參、めい〳〵に御前にてひろげて御目にかけ候、九番畠山殿より御進上の鼻革十間、御名字衆御めに御かけ候、御名字御不參之時は、申次御目にかけ候、下總守、十番に長老達蔭涼軒申つがれ候、十一番に大名、御供衆、御部屋衆、申次節朔の衆、奉行以下御目にかゝり候、さて吉良殿と申て御出候、其後公家と申て御出、大方此分、小の月は、晦日の衆も廿九日に一度に出仕候、一御對面以前に御撫物（御服）申出て、御身固在之、泰法等勤之、一今日御服御拜領の衆あまた御入候、其御服を正月朔日にめして御出仕候、其は御人數大方注之、公家衆には、日野殿、三條殿、廣橋殿、烏丸殿、飛鳥井殿、其外大名衆御拜領、一細川殿より參御扇も、今日をの〳〵へまいらせられ候、面の繪は源氏、うらは雲の間くれなゐ、其上にでい繪在之、骨は十五骨、くろく候、

〔薩戒記〕應永三十三年十二月廿七日丙戌、早旦參入道內相府殿（足利義持姉小路、萬里小路、）稱歳末禮道來諸人所群參也、巳刻入道殿令出座（於會所令謁）給之由、左中將雅兼朝臣告申、人々先僧中上乘院宮、相應院宮、仁和寺新宮（先此宮令謁給、其後上乘院宮以下參近進給、）圓滿院宮（未令蒙親王宣下）如意寺准后、梶井僧正御坊、隨心院僧正、岡崎法眼、花頂僧正、竹內僧正、政智僧正、勸修寺僧正、此外不見知之人申許輩（參進之次第如此）此後俗中、前關白（○九條滿教）關白（二條持基）已上小直衣上結也）右大臣（一條兼良）衣冠前內大臣（洞院滿季）參進時令內府立、前攝政家也如何、內大臣（○近衛房嗣）四條大納言入道、三條大納言、權大納言、右大將、德大寺大納言、藤大納言、萬里小路大納言（此人不守次類謙退、先令大炊御門大納言、西園寺中納言、花山中納言、三位中將等近前、依敬清花也、）大炊御門大納言、中御門中納言、三條中納言、中院中納言、西園寺大納言、葉室中納言、花山院中納言、伯二位、中御門宰相、四辻宰相中將、右衞門督、右中將季俊朝臣、頭中將